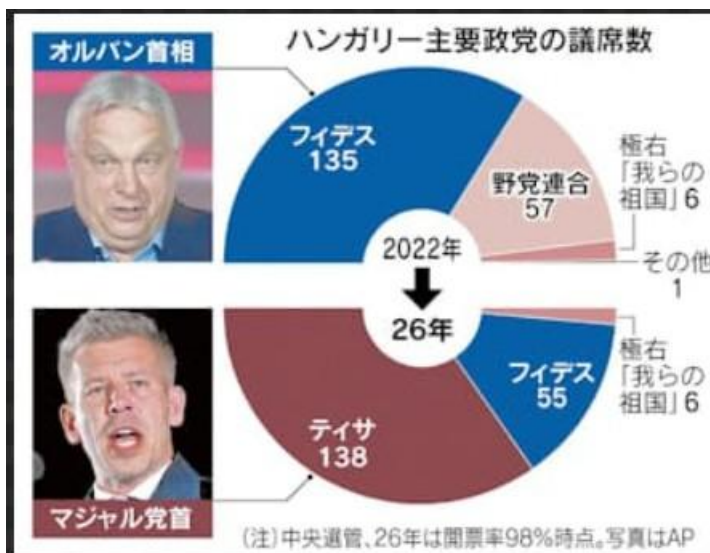


ハンガリーの新政権誕生（643号）

2026年 4月 石館

639号でハンガリーの議会選挙について予測を交え報告したが、12日に投票された。この議会選挙で新興野党“尊重と自由”（ティサ）が199議席中138議席を獲得した。これで同党による政権交代が実現することとなり、憲法改正が可能な3分の2以上の議席数を確保した。2010年以来16年間にわたり政権を維持してきたハンガリー市民同盟（フィデス）・キリスト教民主国民党（KDNP）連合は55議席にとどまり野党に転落した。



小生は今回の選挙は自分の願望もあったが、ティサが勝利するとは思っていたが、これほどの大差で勝利するとは想定外であった。

選挙終盤になって、米国、ロシアのオルバンに対する肩入れの影響を読むのは難しかったが結果としてかえって逆効果になったのであ

ろう。

世論調査による事前の結果予測では、調査機関によって大きな違いが見られた。政府系調査機関の予測が大きく外れた背景として、ティサの動員力、とりわけ30歳未満の若年層や政府批判派の投票意欲の高まりを過小評価していたのではないかと見られる。投票率は過去最高の79%にも達した。

今回ティサは、汚職対策の徹底、EU基金の凍結解除による財源確保、教育と医療の改善などを中心テーマとして選挙戦を展開した。一方、フィデス・KDNP連合は、対外情勢を踏まえた“平和重視”の姿勢、エネルギーの価格上昇の抑制及び供給安定、家族・住宅支援策の継続を主要な訴えとした。

選挙結果を受け、マジャル氏は4月12日夜、“今日、ハンガリーは歴史を刻

んだ“と述べた。同氏は、権力分立の仕組みの回復、国家の民主的な運営、そして EU や NATO との関係修復などを約束し、速やかな政権移行の準備に入る意向を示した。一方敗北したオルバン首相は、勝利したティサを祝福しつつ、野党になっても祖国とハンガリー国民に尽くすと約束し、決して諦めないとも語った。この裏には新政権は一時的な熱狂状態で、いずれエネルギーや経済問題で苦境になり、また自分のチャンスが回ってくると読んでいるのかもしれない。

今回のハンガリーの選挙の予測及びその結果については、ハンガリー在住の経済学者森田常夫氏の報告を参考にした。同氏の所有しているオルバンの若い頃の写真を紹介するが、年を取るほど人相に風格が出る人と、オルバンのように太鼓腹になり悪相になる場合もある。



第一次オルバン政権（1994年）

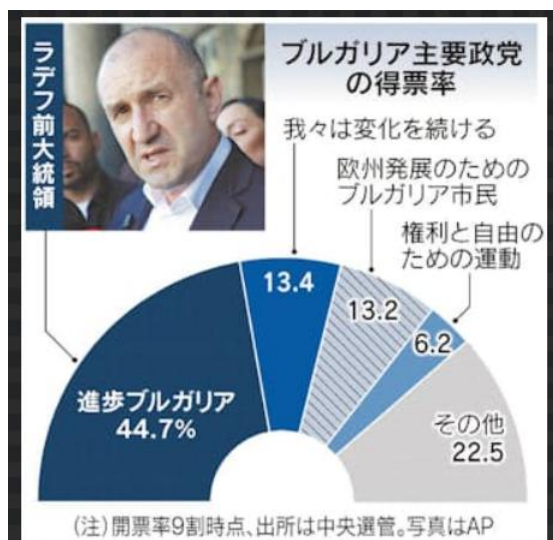
2025年

2026年

今回新首相になるであろうマジヤル党首は、オルバン時代に良い目を見た多くの旧閣僚、経済人による新政権の足を引っ張る動きに対抗せねばならず、茨の道が続くであろう。ただ議会で3分の2を確保し、憲法改正や主要政府機関の人事が可能になる。オルバン政権が確立した統治機構を根本的に改革する道が

開けたのは間違いない。欧州の首脳は“ハンガリーは欧州を選んだ。連合はより強くなる”と歓迎した。

一方欧州はハンガリーで一安心したと思ったが、また次の難題が持ち上がった。それはブルガリアで19日に投開票された議会選で、親ロシア派のラデフ前大統領が率いる中道左派政党（進歩ブルガリア）が勝利を確実にした。



ブルガリアは東欧諸国のソ連邦を形成していた国々の中ではソ連寄りでEUの中で最も貧しい国である。6年前に汚職への大規模な抗議で政治が不安定化して以降、1年以上続いた政権はない。

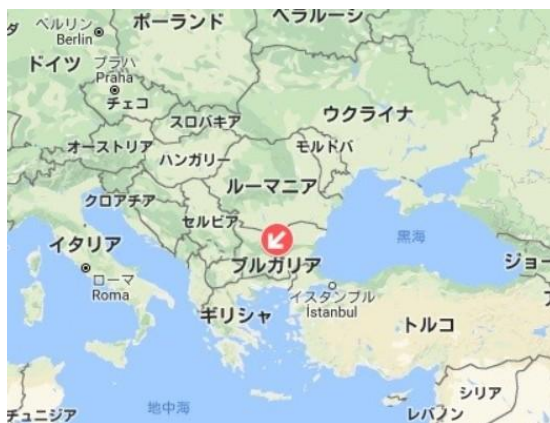
ラデフ氏はこの膠着状況を打破する可能性はあるが、ハンガリーでロシア寄りのオルバン首相が敗北してからわず

か1週間後というタイミングでもあり、多くの欧州諸国で懸念をもって受け止められている。欧州連合は域内に親ロ派政権という新たな火種を抱えることになる。

ラデフ氏は1月に大統領を辞職し“進歩ブルガリア”を立ち上げたばかりだ。同党の得票率は4割を超え、過半数を上回る議席を得ることが確実となった。不安定な連立政権が続いたブルガリアで1党が単独過半数を握るのはおよそ30年ぶりだ。大衆迎合的な政治手法で、変化を求める有権者を引き付けたが、果たして経済政策はうまくいくであろうか。

燃料高に対応するためにエネルギーを含めたロシアとの関係改善を訴えていくであろうが、ハンガリー議会選で大敗した親ロシアのオルバン政権に代わって、対EU戦略の橋頭保にしようとロシアはラデフ政権を取り込んでいこうとするのは間違いない。EUとの協調を重視するリベラル層は危機感を募らせる。

中東欧でのロシアの選挙干渉はハンガリーでは成功しなかったが、拍車がかかっている。ブルガリアの議会選では、ロシアの関与が疑われる偽情報工作や



票の買収の事例報告が相次いでいる。EU の対応は後手に回っている。選挙戦では SNS で親口派のラデフ前大統領を支持する世論調査が目立った。ブルガリアではフェイスブックの利用率が7割で SNS が選挙の主戦場になりやすい。

ブルガリアはロシアと同じスラブ民族で、ロシアに近親感を持つ国民も多い。

2024年のルーマニアでの大統領選挙を皮切りに、ロシアの関与が疑われる選挙干渉が中東欧で相次ぐ。25年のモルドバ議会選で同国政府はロシアが1億ユーロを票の買収を含む親口派野党への支援に投じたと分析した。

ロシアは一貫して選挙干渉を否定するが、親 EU 政党の幹部は“ロシアが石油大手や文化交流団体などを経由して、資金を供与しているのは間違いない”と語っている。